

2014年FIFAワールドカップにおける
日本代表チームとベスト4チームのゲームパフォーマンス比較
阪口 優介 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 北村 哲

キーワード：ワールドカップ，日本代表，ゲームパフォーマンス

I. 緒言

国際サッカー連盟はワールドカップのみならず様々な世界大会において，ワールドサッカーの傾向を把握し情報発信するべく，プレー内容に関する統計データをデータベース化している．その試合で戦術課題が達成されているかどうかを検証するためにゲーム分析が行われるが，定量化しやすい技術の発生頻度を対象にしたものが多く，戦術達成のための一面的な部分を評価しているものがほとんどである．本研究は，2014年ワールドカップで行われた日本代表および，ベスト4へ入賞したブラジル，ドイツ，オランダ，アルゼンチンのゲームパフォーマンスについて，出場選手や監督や著名なサッカー選手や指導者および解説者等サッカー専門家によるレポートから評価し，日本代表に欠如している部分を一般的な定量的評価とは違う視点から明らかにすることを目的とした．

II. 研究方法

2014年のワールドカップにおけるベスト4に残った，ブラジル，ドイツ，オランダ，アルゼンチンと，日本代表チームの5チームを対象に，ゲームパフォーマンスに関するコメントについて可能な限り収集した．その後，各コメント内容の共通性に着目し整理し，比較，検討を行った．

III. 結果と考察

日本代表は，試合の分析を「自分達のサッカーができなかった」，「効果的なサイド攻撃ができなかった」等の技術や戦術的側面から分析を行っているのに対して，他の4チームは，「チームのために犠牲を払う」，「最後まで戦った（やり切れた）」などの精神的な分析やチーム全体としてのチーム力についての側面からの分析していることが多かった（表1）．このようなことから，ベスト4の代表国は試合における重要な勝つ為の要因として，技術的な側面と同じくらいにチームとしての団結して戦う姿勢に重きを置いていると考えられる．また，日本代表チームが世界で戦っていくにあたって，メンバーの変更があった場合，

その対応力に関して，などにすべての選手がイメージを共有し同種のサッカーができる戦術理解度，順応力，コミュニケーション力がより一層必要になってくると考えられる．

表1 マッチレポートにおける国別コメントの特徴

コメント	日本	ドイツ	アルゼンチン	オランダ	ブラジル
戦術や技術的側面からの分析	11	4	3	3	5
メンタル的な側面からの分析	4	15	14	8	7

表2 システムに関する国別コメントの特徴

	日本	ドイツ	アルゼンチン	オランダ	ブラジル
システム，メンバー変更の有無	有	有	有	有	有
選手が順応できた	×	○	○	○	○

IV. まとめ

- 1) 日本代表チームは技術的な分野の分析が多くなされていたのに対して，ベスト4チームはチーム力の成長や，団結力，メンタル面の分析が多くなされていた．
- 2) ベスト4国は，監督と選手間の信頼関係が成り立っていて，システムの変更や，戦術の変更に対応できる能力に優れていた．
- 3) 日本代表が世界で戦っていくためには，監督と選手が密に連絡を取り合って信頼関係を構築し，戦術の変更やシステムの変更に対応できる能力を身につけることが重要である．

V. 主な引用参考文献

- 後藤健生(1997)世界サッカー紀行. 文藝春秋, 東京
- JFA 公益財団法人日本サッカー協会 (2014)
<http://www.jfa.jp/>
- 金井嘉宏, 柏英樹, 家田武文(1996)スポーツに学ぶチームマネジメントダイヤモンド社, 東京.
- 川本竜史(2010)統計データから振り返るワールドカップ南アフリカ大会～ワールドサッカーの傾向から考察する日本代表の方向性～. トレーニング科学, 第22巻第4号, 277-291.
- 国際サッカー連盟(FIFA)WEBサイト
<http://www.fifa.com/>
- ナンバープラス 永久保存版 W杯総集編(2014) 文藝春. 東京.